

日本細菌学会 2023年第3回理事会議事録

- 日 時：2023年9月8日（金） 14：00～17：00
- 会 場：TKPガーデンシティ仙台 ホール30A
- 出席者：赤池孝章 理事長、
川岸郁朗、菊池 賢、垣内 力、河村好章、金城雄樹、寺尾 豊、
富田治芳、内藤真理子、東 秀明、横田伸一 各理事
柳澤直子 監事
オブザーバー：川端重忠 評議員会副議長、中川一路 評議員
- 欠席者：飯田哲也、小椋義俊、小松澤 均、中根明夫、長宗秀明、藤永由佳子 各理事
大崎敬子 監事

※五十音順 敬称略

I. 開会（理事長挨拶）

II. 確認事項

前回理事会の議事録（案）、評議員会の議事録（案）、会務総会の記録（案）
議事録（案）について、追加修正なく議事録は確定した。

III. 総会報告

- 1) 第96回終了報告（飯田哲也 総会長）
収支決算、アンケート結果が報告された。
- 2) 第97回総会準備状況報告（横田伸一 総会長）
（協議事項があることから、協議事項で内容を記す）

IV. 報告事項

1) 総務部会報告

- ①総務・渉外担当報告（河村理事）
会員数の現況と推移について、配布資料の説明がなされた。
- ②選挙関連担当報告（金城理事）
評議員選挙結果が報告され、理事選挙等、本理事会以降に実施する選挙について説明がなされた。

2) 財務部会報告

- ①会費・会計担当報告（河村理事）
2023年7月月次決算が報告された。

3) 広報部会報告

- ①広報・メディア分野担当報告（河村理事）
報告事項なし。
- ②HP・SNS 分野担当報告（川岸理事）
報告事項なし。

4) 産官学連携部会報告

- ①産官学連携分野担当報告（菊池理事）
報告事項なし。

5) 学術部会

- ① 学術支援・評価担当報告（長宗理事）
報告事項なし（協議事項がある。）
- ② 学術企画分野
 1. シンポジウム等企画担当報告（長宗理事）
報告事項なし。
 2. バイオセーフティー担当報告（飯田理事）
病原体等安全取扱・管理指針 2023 年改訂版が完成し、9 月 11 日の週から、申込み受付を開始することが報告された。
 3. ICD 制度協議会等担当報告（菊池理事）
報告事項なし。
- ③ 学術交流分野
 1. 日本微生物学連盟／日本学術会議担当報告（金城理事）
 2. 日本医学会連合担当報告（金城理事）
 3. 予防接種推進専門協議会担当報告（菊池理事）

6) 教育部会報告

- ①次世代教育・人材育成担当報告（垣内理事）
第 17 回細菌学若手コロッセウム（8/17～19）の開催、収支決算が報告された。
- ②教育資源発掘・保存担当（内藤理事）
報告事項なし。

7) 出版部会報告

- ①学会誌担当報告（藤永理事） 報告事項なし。
- ②M I 誌担当報告（寺尾理事） 委員会開催や最新 IF（2.6）が報告された。
- ③用語集担当報告（富田理事） 報告事項なし。

8) 国際交流部会報告

- ①IUMS 等担当報告（東理事）
IUMS の今後について協議されたことや、現在の状況について、東理事および中川先生から報告がなされた。
- ②日韓微生物等担当報告（小松澤理事）
報告事項なし。

9) 社会交流部会

- ①研究倫理・安全保障分野担当報告（赤池理事長） 報告事項無し。
- ②利益相反担当報告（中根理事） 報告事項なし。

10) その他・

V. 審議事項

1) 第 98 回総会長について（2025 年開催）

赤池理事長より、金城理事から（理事の）藤永先生が推薦されたことが述べられ、協議の結果、承認された。総会長の最終承認機関は評議員会であることから、2024 年の評議員会に推薦することとなった。なお、藤永先生からは「金沢市は学術集会等の開催地として人気が高く、春の会場確保は難しいことから、会期は 2025 年 5 月 29 日(木)～31 日(土)としたい」旨の強い要望を受けていることも紹介され、藤永先生の意向を汲むこととなった。

2) 第97回総会のプログラムについて

横田総会長より、現時点で決定している内容が説明された。

- ・中高生セッション
- ・日韓微生物学シンポジウム（総会3日目のシンポジウム枠で開催）
- ・公募企画はシンポジウム9枠、ワークショップ10枠の計19企画（応募期間は10月17日（火）～11月14日（火））
- ・ICD講習会
- ・一般演題

中高生セッションについては、学生が参加しやすくするためにオンライン形式のハイブリッド開催とすること、また、全一般演題にポスター会場でのフラッシュトークを行なうことが提案され、いずれも承認された。

3) 来年（2024年）の評議員会の開催時期について

例年の総会開催時期は3月であり、また総会前日に評議員会を開催している。2024年の総会は8月開催のため、評議員会の開催時期について協議した結果、決算や予算を決定する必要があることから、zoom形式で3月に開催する方向性となった。（次期理事会に本件を引き継ぐ。）

4) 浅川賞に関する調査結果等に関する評議員への結果報告方法について

本年3月の評議員会において、赤池理事長から、北里研究所から浅川賞受賞者に対する疑義が呈されたことから、不正調査委員会を設置し、調査結果を報告することが述べられていた。評議員への結果報告方法について協議した結果、2024年の評議員会において、現理事長の赤池先生から調査結果を報告することとなった。

（本会の調査結果として、不正は認められないと結論づけたことを報告する。）

5) 学会賞選考委員会からの連絡内容について

2022年11月の理事会で、学会賞選考委員会から（来年の選考委員会への）「申し送り」内容が提示され、その内容に再考の余地があると指摘された項目があったことから、選考委員会で再協議され、その最終結果が提示された。

・ハゲタカジャーナルの扱いについて

基準について、具体的な文言として挙げるのが困難であるため、「慎重に検討すること」とした。

・応募者への結果のフィードバックについて

受賞に至らなかった者全員に行なうことは、不都合な指摘を行う必要もあることから困難であるため、公式に伝えることは見送る

・浅川賞・小林賞と同一年に同じ論文が黒屋賞に申請された場合の取り扱い、およびその規程の公開について

継続検討として、今年の学会賞選考委員会で議論の上、12月の理事会へ結果報告することとなった

6) 学会賞の細則の改定に関して

赤池理事長より、現在の3つの学会賞は「日本細菌学会の賞である」ことが、過去の本会学会誌では明記されていたが、現在の会則・細則等ではそれらが削除されていることが指摘された。（浅川賞は第15巻、小林六造記念賞・

黒屋奨学賞は第 48 巻等。) この記載は学会にとっては非常に重要であることから、会則あるいは細則へ再度明記することが提案され、協議の結果、承認された。具体的には、細則の第 41 条を下記のように改定することとなり、次回評議員会の議題とすることとなった。

**学会賞は浅川賞、小林六造記念賞（略称：小林賞）および黒屋奨学賞（略称：黒屋賞）の3種類とする。
とし、いずれも日本細菌学会の賞とする。**

7) 「優秀発表賞選考要領」の改定について

学術支援評価委員長の長宗担当理事欠席のため、同委員会委員の寺尾理事より、優秀発表賞選考要領「3の1）」の規定の中に、実情に合わせ、「（事前抄録を含む）」を追記したいことが述べられ、協議の結果、承認された。

8) MI 誌編集委員会委員の交代について

寺尾理事（委員長）より、MI 誌編集委員の任期は 6 年であり、2023 年をもって任期を終える 14 名の委員を交代することが述べられると共に、新委員候補者 12 名が紹介され、承認された。なお、新委員長は、次期理事会での選出を待つことが補足された。

9) ジュニア賛助会員の定義について

河村理事より、ジュニア賛助会員の定義について下記のように改定することが提案され、協議の結果、承認された。

本学会の趣旨に賛同し細菌学に関心を持つ18歳未満の者で、所定の会費を納入した者*。

本学会の趣旨に賛同し細菌学に関心を持つ初等中等教育機関等に所属する 19 歳未満の者で、所定の会費を納入した者*

また、学会 HP（賛助会員ページ）に掲載しているジュニア賛助会員の案内を、高校に訪問する・模擬授業を行なう機会に持参して学校側に広報することが提案され、これも承認された。

10) 後援依頼について（名義後援）について

赤池理事長より、神奈川県立産業技術総合研究所から、同所開催の教育講座における名義後援依頼を受けたことが説明され、協議した結果、本会協議前に既に同所 HP に後援（予定）と記されていることや、営利目的が疑われる内容もある等不適切な点が散見されることから、承認しないこととなった。

11) 次回理事会について

赤池理事長より、事務局を通じて送る候補日をもとに調整することが述べられた。

12) 次期理事への引き継ぎについて

赤池理事長より、次回理事会までに、次期理事会に向けた各担当の引継書の作成および提出が求められた。

VI. 閉会